知　事　提　案　説　明　要　旨

令和８年１１月県議会定例会

令和８年１１月県議会定例会の開会に当たり、ただいま提案いたしました議案の御説明に先立ち、４点御報告を申し上げます。

【　県　政　報　告　】

１点目は、「新たな県東京ビルの供用開始」についてであります。

当施設は、老朽化に伴う旧ビルの解体後、県施設と民間施設が入る合築ビルとして再整備し、先月から供用を開始しています。

先月１９日には、県議会から山下副議長に御出席いただき、テープカットや記念撮影のほか、在京宮崎県人会の有志による県民歌の披露など完成セレモニーを開催しました。

新ビルには、従前からの学生寮や職員寮、フロンティアオフィス等に加え、新たに交流拠点「hinataba（ひなたば）」を設置しました。県人会や関係団体等と連携して定期的にイベントを開催するなど、関係人口の創出につなげてまいります。

また、県産木材のスギやヒノキをふんだんに使用しており、県産木材の魅力を首都圏に発信する拠点としても期待しています。

東京の都心に、本県出身者やゆかりの方などが集う新たな拠点が完成しました。首都圏における本県施策の推進拠点として、その機能を十分に発揮できるよう取り組んでまいります。

２点目は、「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」についてであります。

先月１０日から２６日までの間、青森県で国スポ・障スポが開催され

ました。私はそれぞれの閉会式に出席し、青森県知事から国スポ・障スポ両大会の大会旗を引き継いでまいりました。特に国スポの大会旗はずしっと重く、両手に伝わるその重さから、この大会の歴史の重みや開催県として担う責任の大きさを実感し、来年の大会に向けて身の引き締まる思いがしております。

青森国スポにおける本県の天皇杯順位は、目標としていた１０位を上回り、昭和５４年の宮崎国体以来、最高となる「８位入賞」という好成績を収めることができました。これまで、たゆまぬ努力を続けてこられた選手、関係者の皆様に深く敬意を表します。

宮崎国スポにおいて目標としている天皇杯獲得は、県民に大きな感動を届けるとともに、本県の競技力の高さと充実したスポーツ環境を全国へアピールする絶好の機会となります。今回の成果を大きな弾みとして、天皇杯獲得に向け、官民一体となって全力で取り組んでまいります。

現在、県内各地でリハーサル大会や関連イベントが開催されており、大会に向けた気運は、今後一層高まっていくものと考えております。

この気運を大会の成功に向けた更なる盛り上がりにつなげ、「県民総参加型による“おもてなしの心”あふれる大会」となるよう、市町村や競技団体等とも緊密に連携し、万全の準備を進めてまいります。

３点目は、「「全国豊かな海づくり大会」宮崎大会の開催決定」についてであります。

先月２１日、令和１１年度に開催される「第４８回全国豊かな海づくり大会」の開催地が、本県に決定されました。

この大会は、水産資源の保護・管理と、海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、「つくり育てる漁業」の推進を通じて、わが国漁業の振興と発展を図ることを目的とする国民的行事で

す。

本県での開催は、平成７年度に日南市で開催された第１５回大会以来、３４年ぶり２回目となります。前回の開催時と比べ、水産資源の減少や、気候変動に伴う漁獲魚種・来遊時期の変化など、海洋環境は大きく変化しています。

こうした中、本大会の開催は、本県水産業の魅力を全国に発信するとともに、水産資源の保護や海洋環境の保全について、県民をはじめ広く国民の皆様に改めて認識していただく絶好の機会であり、水産業の振興や地域活性化にも大きく寄与するものと確信しています。

県としましては、今後、市町村や関係団体等と連携し、宮崎らしい魅力ある大会の成功に向け、着実に準備を進めてまいります。

４点目は、「東九州新幹線に係る取組」についてであります。

先月２９日、九州地方知事会等の開催と合わせ、宮崎市において、東九州新幹線鉄道建設促進期成会の総会を４３年ぶりに開催しました。

整備実現に向けた総決起大会として開催した当日は、多くの県議会議員の皆様をはじめ、国会議員、経済界、期成会を構成する４県１市の各自治体や各団体の代表者の皆様に御参加いただき、盛会のうちに開催することができました。御参加いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

東九州新幹線につきましては、これまで本期成会や沿線自治体をはじめ、様々な関係者や団体が連携し、整備実現に向けた取組を進めてまいりました。

私も知事就任以降、直接国に対し、早期整備や財源確保等の要望を続けてきたほか、本県独自の調査や、県内におけるシンポジウムの開催等を通じて機運醸成を図ってきております。

このような中、今年度、国が初めて実施する基本計画路線に係るケー

スタディの対象に東九州新幹線が選定されるなど、整備実現に向けた新たな動きが出てきております。

この好機を捉え、関係者の皆様の力を結集し、新幹線整備実現に向けた議論を加速させるため、今回の総決起大会を開催したものであり、引き続き、本期成会の会長として先頭に立ち、尽力してまいります。

県議会の皆様におかれましても、引き続き御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

【 補 正 予 算 案 】

それでは、議案の概要について御説明申し上げます。

はじめに、一般会計補正予算案についてであります。

補正額は、

一般会計　　９億３，３６０万６千円

であります。

この結果、一般会計の予算規模は、

７，１９１億３，５５５万７千円

となります。

今回の補正予算による一般会計の歳入財源は、

国庫支出金　　７，４７９万９千円

繰入金　　８億４，７５０万７千円

県債　　１，１３０万円

であります。

続きまして、今回の補正予算案に計上した主な事業の概要について御説明申し上げます。

まず、「美しい宮崎の海岸松林保全対策事業」は、松くい虫被害木の伐倒・搬出等を行うための経費です。

次に、「木造住宅等耐震化支援事業」は、旧耐震基準で建築された木造住宅の所有者等への支援を行う市町村に対し、耐震改修工事等に要する費用の一部を補助するための経費です。

次に、「高校教育改革「みやざきモデル」推進事業」は、県立高校の教育改革を先導する拠点校において、実践的な新しい教育カリキュラムの構築等に取り組むための経費です。

このほか、国庫補助事業の決定等に伴う事業を計上しております。

次に、主な債務負担行為について御説明申し上げます。

まず、「宿泊施設立地促進等支援事業」は、民間事業者に対して、プロスポーツ選手等が宿泊する施設の改修費用を市町村と協調して補助するため、債務負担を設定するものです。

次に、「日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ県実行委員会負担金」は、宮崎国スポ・障スポの県実行委員会に対し、大会の運営に要する費用を負担するため、債務負担を設定するものです。

また、議案第２号の港湾整備事業特別会計補正予算は、宮崎港マリーナ施設の指定管理者選定に伴い、債務負担を設定するものです。

議案第３号の県立病院事業会計補正予算は、県立病院事業の年度中途における一時的な資金不足を補う一時借入金について、限度額を改めるものです。

【 予 算 以 外 の 議 案 】

次に、予算以外の議案について御説明申し上げます。

議案第４号は、警察法施行令の改正に伴い、警察本部にサイバー警察部を新設するため、関係規定を改正するものです。

議案第５号は、政治資金規正法等の改正に伴い、関係規定を改正する

ものです。

議案第６号は、職員の勤務実態の変化等を踏まえ、手当の額や支給要件等について、関係規定を改正するものです。

議案第７号は、将来、県職員薬剤師として勤務を希望する者へ修学資金を貸与するにあたり、対象者や貸与額等の必要な事項を定めるため、制定するものです。

議案第８号は、学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律の制定等に伴い、関係規定を改正するものです。

議案第９号は、円滑な事業再生を図るための事業者の金融機関等に対する債務の調整の手続等に関する法律の制定に伴い、関係規定を改正するものです。

議案第１０号は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の改正に伴い、関係規定を改正するものです。

議案第１１号及び第１２号は、宮崎港マリーナ施設等及び宮崎県体育館等の管理を行わせる指定管理者の指定について、議会の議決に付するものです。

議案第１３号は、令和９年度の全国自治宝くじ及び西日本宝くじの本県発売金額を定めることについて、議会の議決に付するものです。

議案第１４号は、宮崎県公共施設等総合管理計画の変更について、議会の議決に付するものです。

議案第１５号は、教育委員会委員１名が、令和８年１２月２３日をもって任期満了となりますので、木村 志保 氏の後任委員として、榎本 奈津子 氏を任命いたしたく、議会の同意を求めるものです。

議案第１６号及び第１７号は、収用委員会委員２名が、令和８年１２月２７日をもって任期満了となりますので、小八重 英 氏の後任委員として、髙原 みゆき 氏を任命するとともに、鈴木 一郎 氏を再任いたし

たく、議会の同意を求めるものです。

議案第１８号は、収用委員会予備委員１名が、令和８年１２月２７日をもって任期満了となりますので、髙原 みゆき 氏の後任委員として、片寄 元道 氏を任命いたしたく、議会の同意を求めるものです。

今回提案いたしました議案の概要については、以上であります。

なお、職員の給与改定等及び国の重点支援地方交付金の追加交付を受けた物価高対策に係る補正予算等について、現在、内容を精査しているところであり、別途、追加提案をさせていただきたいと考えております。

議員の皆様におかれましては、よろしく御審議のほどお願いいたします。

最後に、本議会は、私の４期目の任期における最後の定例県議会となります。県政に対する私の所信の一端を申し上げ、議員及び県民の皆様の御理解を賜りたいと存じます。

私は、知事就任以来、約１６年にわたり、「徹底した現場主義」と「対話と協働」を基本姿勢として、県議会をはじめ、県民の皆様、市町村、関係団体と力を合わせ、各県や国との連携も深めながら、県勢発展に邁進してまいりました。

口蹄疫からの復興、新燃岳の噴火や東日本大震災への対応、さらにはコロナ禍からの再生など、困難な課題にも真正面から向き合い、真摯に取り組んでまいりました。

その結果、一人あたり県民所得の増加をはじめ、全国和牛能力共進会での４大会連続の内閣総理大臣賞受賞、農業産出額・輸出額の拡大、フードビジネスの振興や企業立地の推進、陸海空の交通インフラや国スポ開催を見据えた大型スポーツ施設の整備など、将来につながる成果が

現れ、県政の着実な前進に手応えを感じております。

一方で、急速に進む人口減少・少子高齢化や、長引く物価高、激甚化・頻発化する自然災害など、本県が克服すべき課題は山積し、その解決は、いまだ道半ばであります。

これまでの成果を礎として、皆様との厚い信頼関係の下、産業の稼ぐ力を高め、暮らしの安心を支えるとともに、社会基盤のレベルアップを図り、安心と希望のあふれる宮崎を築いていく。このことが、私の果たすべき使命であると確信しております。

引き続き、県勢発展に全精力を傾注してまいる決意であります。

これまで賜りました温かい御理解と御協力に、心から感謝を申し上げますとともに、なお一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上であります。